

---

---

## 新刊紹介

編集委員会

□『**湿原の植物誌 北海道のフィールドから**』. 富士田裕子著. A5版. 243頁. 2017年5月15日. 東京大学出版会. 4,400円+税

本書は書名からも窺えるように北海道の湿原を主に展開している。目次を紹介すると、第1章湿原への招待、第2章湿原の自然誌、第3章湿原の植物、第4章失われつつある湿原、第5章よみがえれ湿原。

湿原王国といわれる道内のさまざまな湿原でフィールドワークを続けてきた著者が、湿原の概念を解説し、現状と新たな取り組みを紹介する。

第3章において個別にミズバショウ・ムセンズゲ・チョウジソウ・ハンノキを取り上げているが、それらのライフワークとも言える調査研究の具体的経緯が記されていて読み応えがある。

第4章以降で、自らかかわった各地の低地湿原の最新のデータを示してその危うさを訴え、生態系をよみがえらせる新たな取り組みも紹介しており著者の湿原への思いが汲み取れ、説得力がある。

□『**世界植物記 アジア・オセアニア編**』. 木原浩著. A4版. 288頁. 2016年11月16日. 平凡社. 6,800円+税

本書は、既刊の「アフリカ・南アメリカ編」(2015)の続巻である。このシリーズは著者の訪れた地域の紀行録を植物の画像と文章で構成しており、読み進めながら楽しめる。扱っている地域はイスラエル国、ネパール・ヒマラヤ/ネパール連邦民主共和国、ブー

タン王国、四姑娘/中華人民共和国四川省、キナバル山/マレーシア、スマトラ島/インドネシア、西オーストラリア、ミルフォードトラック/ニュージーランド、ハワイ州・マウイ島/アメリカ合衆国、西表島/日本である。中でも圧巻はスマトラ島のオオショクダイコンニャクとラフレシアの観察記録である。両者とも開花に至るまでの様子が詳細に記録されていて、読者は現地で疑似体験したような気分になる。

各地域では、目にした植物はできるだけ多く紹介する姿勢が見て取られ、多種類の植物の画像と学名が掲載されている。だが植物名の索引は付いていない。

また訪れた現地の人々の日常生活の様子なども随所に取り上げているのも本書の特徴であろう。

□『**湿地の科学と暮らし — 北のウェットランド大全**』. 矢部和夫・山田浩之・牛山克巳監修/ウェットランドセミナー100回記念出版編集委員会編. A5版. 380頁. 2017年4月25日. 3,400円+税

編者のウェットランドセミナーとは湿地を研究対象とした研究者や学生が集まり、情報を交換し、研究を深めていこうという趣旨で、北海道大学農学部にて毎月1回程度セミナーを開催しているが、本書はセミナー開催100回目に達したのを記念して、これまでの成果を中心に取りまとめたものである。構成は、序文、第I部湿地の生態、第II部湿地の生物、第III部湿地の環境、第

IV部湿地の人と歴史、第V部湿地の保全となっている。

巻末に編者の矢部和夫氏が「私とウェットランドセミナー—20年のセミナーの変容」で述べているが、これまでの湿原の研究だけでなく、もっと幅広く湿地全体を研究対象とし脆弱な生態系としてとらえ、湿地に積極的に介入して保全する方向にシフトした。同時に湿地の研究は生態学、土壌学、水文学などの自然科学的研究から、人文・社会科学系の研究との協働で行われる保全科学研究へと変貌した経緯が述べられ、41名に上る執筆陣により、北海道を主とする湿地にかかわる幅広い分野での最新の調査研究成果が述べられている。いま注目を集める「湿地」の現在を知るための入門書。

なお、本会会員では山崎真実さんが8章を、小玉愛子さんがコラム「ハスカップ—湿原の利用の一例として」を執筆している。

□『改訂新版 日本の野生植物』.全5巻.大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司(編).五百川裕ほか51名(著).四六倍版.663頁(1巻),637頁(2巻),602頁(3巻),604頁(4巻),758頁(5巻),141頁(総索引).2015年12月17日~2017年9月20日.平凡社.22,000~24,000円+税

本書は当誌33号に紹介済みであるが、刊行直前で出版社からの情報に拠り紹介したものであった。2017年9月に全巻の刊行が終了したので改めて紹介する。内容の概要は33号で紹介したとおりであるが、本書を手にして気の付いた部分を紹介する。  
\*本文を巻の前半に置き、図版を後半に其々まとめて編集されているので本文の種名か

らその写真を探すにあたり旧版より便利と感じたが、写真ページを本文との間に小まめに配置していた旧版とは一長一短あろう。  
\*最終巻の5巻に全巻を纏めた総索引が別冊で付録されており、学名と和名別に昇順で索引出来る。

\*刊行中にAPGIV体系が発表されたが、第3巻以降で対応している。

\*Ylistと比較してみると、本書で採用の学名や属の所属などで相違が一部見られるが、本書の執筆担当者との見解の相違が表れた結果となっている。

□『新分類 牧野日本植物図鑑』.牧野富太郎(著),邑田仁・米倉浩司(編).B5版.1,630頁.2017年6月20日.北隆館.30,000円+税

本書は歴史的な『牧野日本植物図鑑』のAPGシステム対応版である。種子植物については、2016年に発表された最新のAPGIVに従っている。本図鑑に収録されている植物は、日本に自生し一般に知られている野生植物を主とし、それに代表的な栽培植物、帰化植物を加えている。本書は、裸子植物81、被子植物4,422、大葉シダ植物304、小葉植物24、コケ植物95、シヤジクモ類22、藻類140、菌類78、地衣類30の計5,196件(種・亜種・変種・品種を含む)を収録している。

初版以来の様式を守り、1種類ごとに線図と解説がセットになっているが、本版では植物の和名がこれまでの平仮名からカタカナに変更され、また巻末の学名解説は従来どおり。

本書は最新の分類体系に組みなおした地衣類から種子植物までを一冊でカバーする植物図鑑と言えよう。